第１回高松市下水道事業運営検討委員会	資料１
令和６年５月３１日	

【議題２】　高松市下水道事業の現状と課題について

1　下水道事業の現状

（１）高松市下水道の歩み

年次		内容
昭和８年	２月	国から下水道築造許可を得て、下水道事業に着手。
３０年	１１月	第１期拡張事業許可を得て、事業に再着手。
４０年	４月	高松市初の処理場である福岡下水処理場の運転開始。
４９年	５月	高松市の市街化区域全体を中部・東部・西部処理区に分け、高松市公共下水道事業の全体計画策定。
５０年	１２月	第２期拡張事業許可を得て、東部処理区の下水道事業に着手。
５７年	１１月	東部下水処理場が運転開始。
平成５年	９月	香東川流域下水道の事業認可に伴い、西部処理区の下水道事業に着手。
１３年	８月	香東川浄化センターが運転開始。（→これに伴い、福岡下水処理場の廃止。）
１６年	６月	西部処理区の未整備地区について事業認可を取得。（17年から事業着手。）
１７年	９月	塩江町と合併。
１８年	１月	牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併。
２３年	４月	下水道事業への地方公営企業法の全部適用にあわせ、上下水道部門の組織を統合し、上下水道局が発足。
２８年	４月	香川県から香東川流域下水道の移管を受け、単独公共下水道に編入。
３０年	４月	水道事業の広域化に伴う上下水道組織の分離により、下水道事業部門を高松市都市整備局に編入。（地方公営企業法の一部適用（財務規定等））

1　下水道事業の現状

（２）高松市の地域別・下水道種別

公共下水道

- 単独公共下水道（東部・牟礼・西部（旧高松市、旧香川町、旧国分寺町））

  ⇒公共下水道のうち、市町村が単独で下水の終末処理場を有するもの。

- 特定環境保全公共下水道（牟礼・庵治・西部（旧塩江町、旧香南町））

  ⇒処理対象人口が概ね1,000人未満で水質保全上、特に必要な地区において施行され、市街地区域以外の区域において設置することができる簡易な公共下水道のこと。

（３）高松市のデータ

（令和５年４月１日現在）

区分	実績	区分	実績	区分	実績
人口	419,628人	処理区域内戸数	134,619戸	事業計画区域面積	6,569.7ha
処理区域内人口	269,857人	水洗化戸数	124,855戸	整備面積	5,505.5ha
下水道人口普及率	64.3%	公共下水道接続率	92.7%	整備率	83.8%

※下水道人口普及率（R4実績）　全国平均：81.0%、香川県平均：46.6%

1　下水道事業の現状

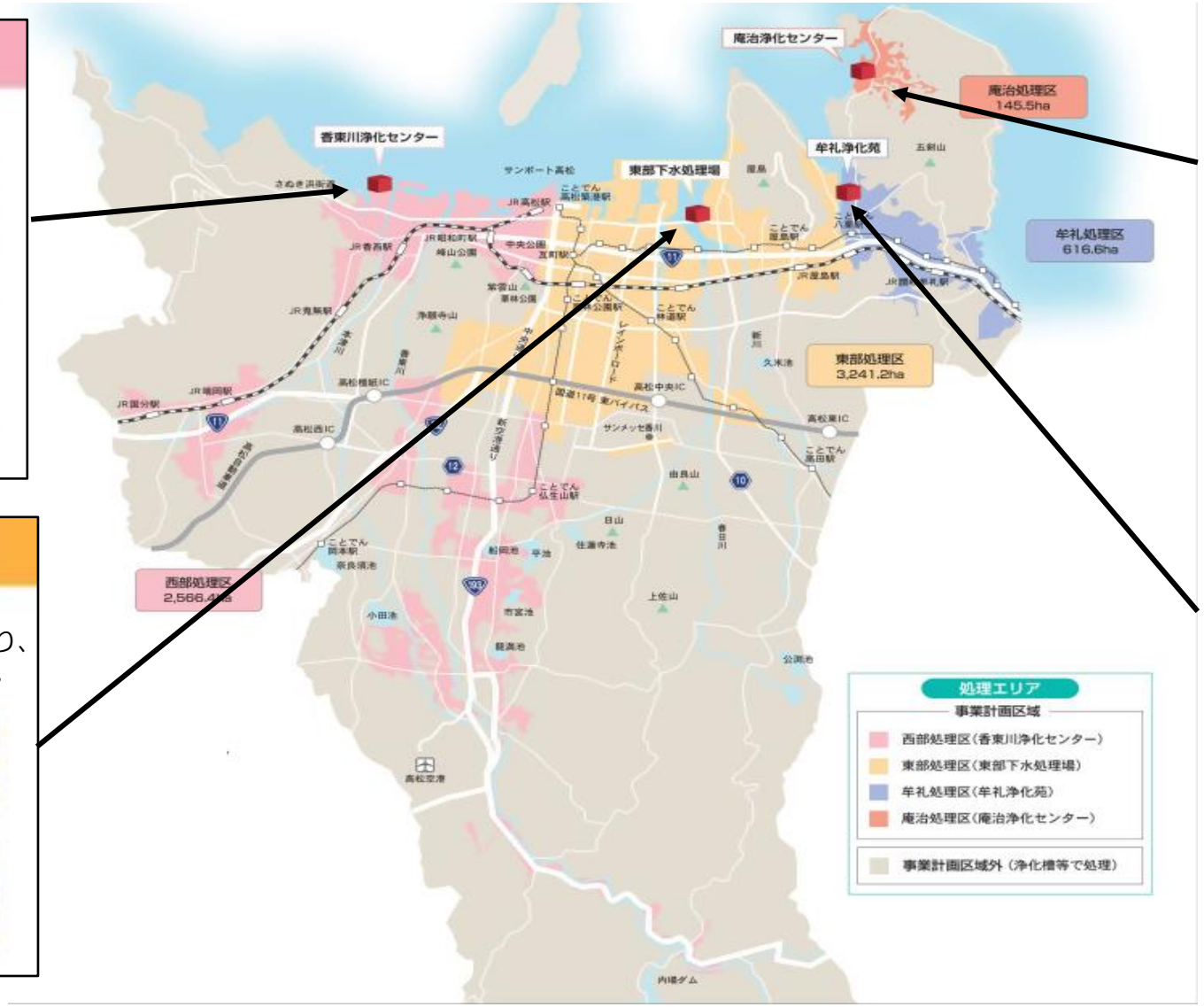
（４）高松市の下水処理エリアマップ

①香東川浄化センター

西部処理区の汚水を処理する施設。
高松市で一番新しい下水処理場。

②東部下水処理場

東部処理区の汚水を処理する施設。
高松市の中核となる下水処理場であり、
施設内には多目的広場や公園等あり。



③庵治浄化センター

庵治町の汚水を処理する施設。人口の少ない地域で利用する処理方法を採用。

④牟礼浄化苑

牟礼町の汚水を処理する施設。
高松市東部のベッドタウンとして増加する人口に対応して建設。

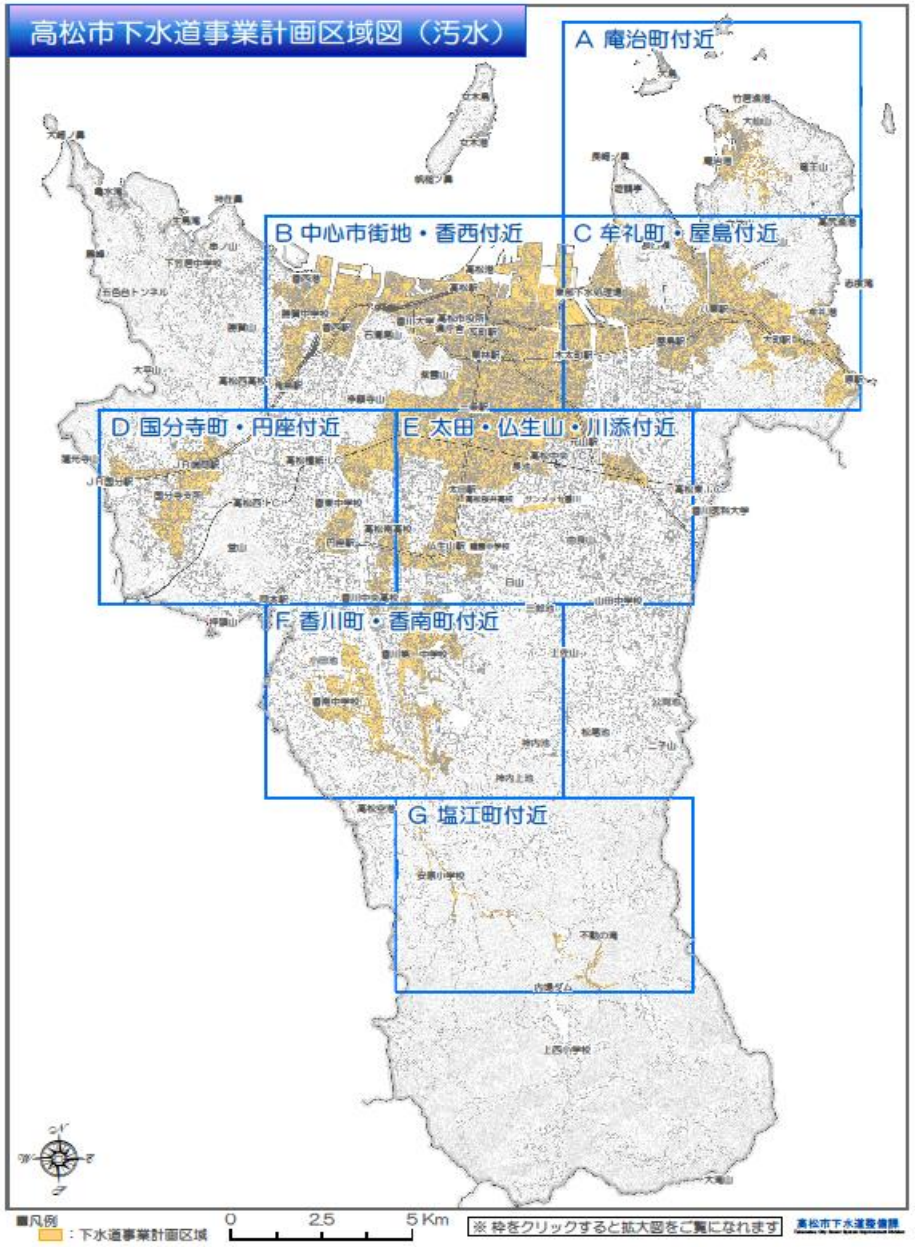
1　下水道事業の現状

（５）高松市の下水道事業計画区域の概要

下水道事業計画区域（右計画図に着色された区域）において、計画的に下水道管の整備を実施

★平成２８年度以降の公共下水道整備

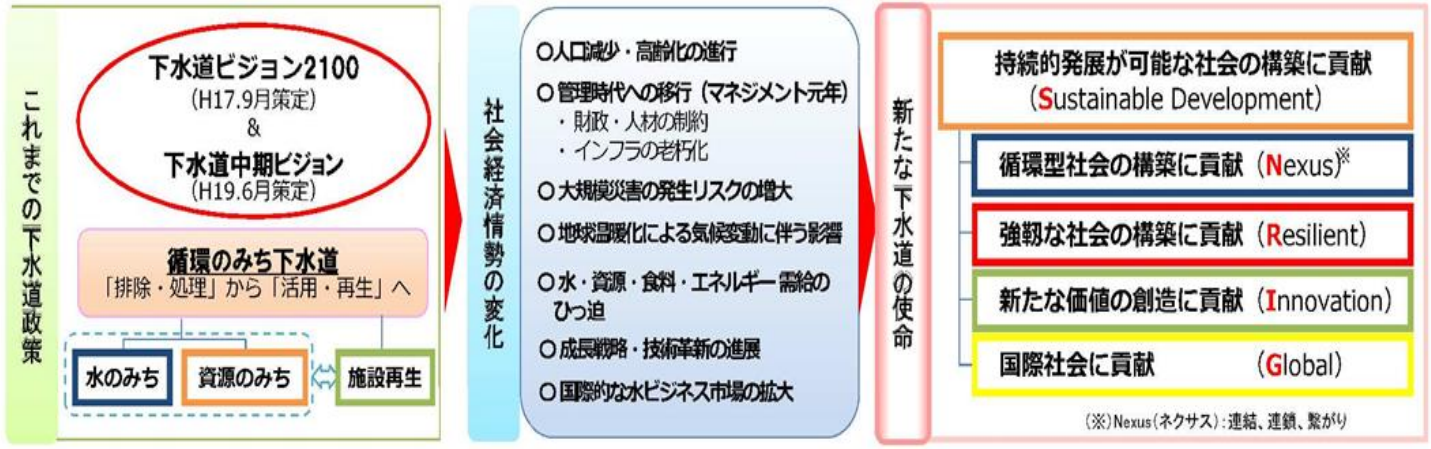
⇒費用対効果及び「高松市都市計画マスタープラン」や「高松市多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」の考え方等との整合を図る観点から、基本的には新たな事業計画区域の拡大は行わないとしている。

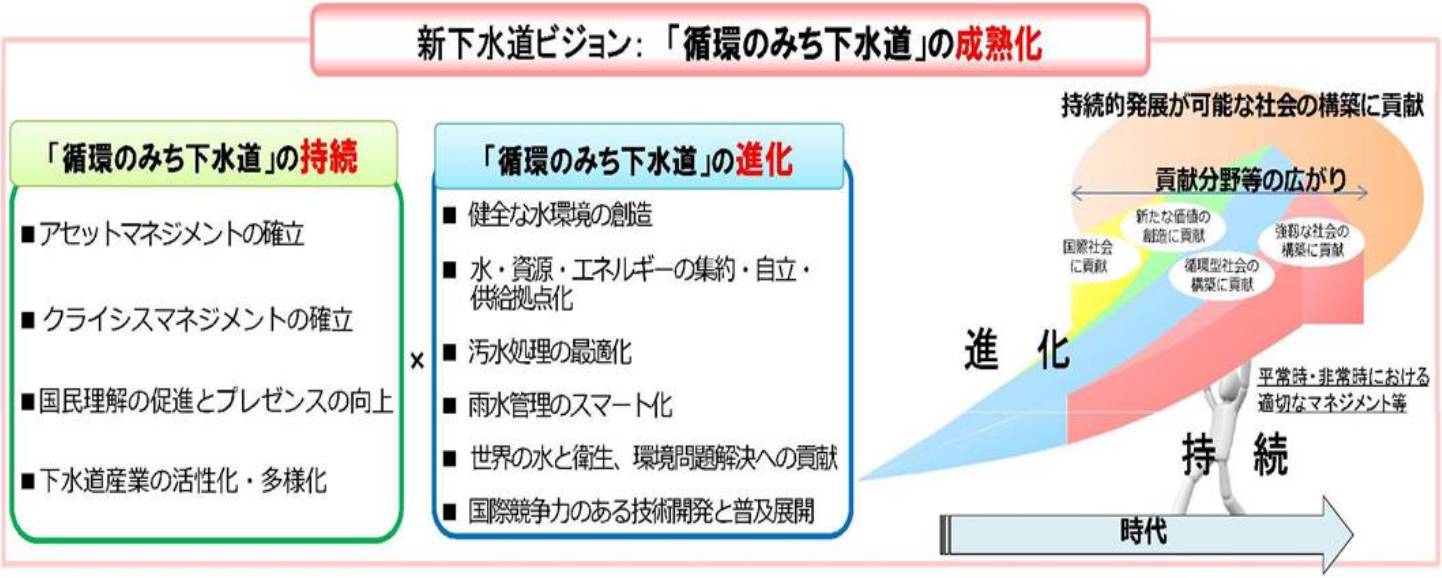


2　下水道事業の課題

（１）国の現状と課題、動向等

【これからの下水道の方向性】





【８つの重点項目】

【Ⅰ】　官民連携の推進
【Ⅱ-１】　下水道の活用による付加価値向上
【Ⅱ-２】　脱炭素化の推進
【Ⅲ-1】　汚水処理システムの最適化
【Ⅲ-2】　水環境管理
【Ⅳ】　アセットマネジメント・下水道ＤＸ
【Ⅴ】　水インフラ輸出の促進
【Ⅵ】　気候変動等を踏まえた防災・減災の推進
【Ⅶ】　ニーズに適合した下水道産業の育成
【Ⅷ】　国民への発信

「新下水道ビジョン加速戦略（令和４年度改訂版）」（国土交通省）より抜粋

出典：国土交通省：「新下水道ビジョン（概要）」

2　下水道事業の課題

（２）香川県の現状と課題、動向等

【計画】

平成27年12月	「新・せとうち田園都市創造計画～成長、信頼・安心、笑顔の香川を目指して～」を策定。（～Ｒ2年度）
平成28年３月	「第４次香川県全県域生活排水処理構想」を策定。（～R7年度）
令和３年10月	「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～」を策定。（～Ｒ7年度）
令和５年３月	「香川県汚水処理事業広域化・共同化計画」を策定。

汚水処理人口普及率　（「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画における指標）

実績		
Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
79.6%	80.3%	81.1%

目標
Ｒ7
85%

※下水道、合併処理浄化槽・コミュニティプラント、農業・漁業集落排水施設
※全国平均（Ｒ4）　92.9%

【課題】

- ☑ 人口減少など社会情勢の変化に応じた計画の見直しを行う必要がある。
- ☑ 生活排水処理施設の役割や目的について住民の理解を得る必要がある。
- ☑ 単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの転換が進んでいない。
- ☑ 住民への情報提供が十分ではない。
- ☑ 事業の執行体制や各事業間の連絡調整を強化する必要がある。
- ☑ 施設の老朽化対策に取り組むなかで早期整備のための財源確保が難しい。
- ☑ 維持管理に必要な適正な料金が徴収されていない。
- ☑ 集合処理施設の効率的な維持管理や個人が設置する合併処理浄化槽の適正管理を推進する必要がある。
- ☑ 処理水や汚泥などの資源の有効活用を促進する必要がある。

～第４次香川県全県域生活排水処理構想から抜粋～

2　下水道事業の課題

（３）高松市の課題

	現　　状	課　　題
下水道整備・維持管理の視点	・現在、1,435.37㎞の管きょ、４処理場、34ポンプ場が稼働。 ・下水道処理人口普及率 ⇒ 約６割 下水道接続率 ⇒ 約９割 ・集約型のまちづくりを目指していることから、新たな下水道事業計画区域の拡大は行わず、計画区域内の未整備地区において、計画的かつ効率的な整備が必要。 ・下水道施設の老朽化も進んでおり、適切な維持管理、改築・更新が必要。	・公共下水道（汚水）の整備 **⇒下水道全体計画のあり方** ▶ 資料２ ・接続促進 ・管路、処理場、ポンプ場施設の老朽化 ・維持管理の効率化 **⇒下水道分野における維持管理体制のあり方** ▶ 資料２ ・公共用水域の水質保全　※　など
危機管理・防災の視点	・近年の気候変動により頻発が予想される局地的豪雨などの自然災害により発生する浸水被害の軽減、解消が求められ、本市の雨水対策整備率は約5割弱が完了。 ・近い将来、発生が予測されている「南海トラフ地震」等に対応するため、下水道施設等の耐震化を図る必要がある。 ・大規模災害発生時、下水道事業運営のための実効性のある高松市下水道事業業務継続計画の運用が必要。	・浸水対策 **⇒想定最大降雨における雨水出水浸水想定区域指定** ・施設等の耐震化 ・危機管理体制の構築 ・関連機関との連携　など **⇒災害時の広域的な連携強化**

※「高松市下水道事業基本計画」（R2年３月策定）１５Pを抜粋。
（太字部分は追加。）

2　下水道事業の課題

	現　　状	課　　題
環境への配慮の視点	・高松市環境基本計画等により、環境に配慮した事業の実施に取り組む必要がある。 ・再生可能エネルギーの活用や環境負荷の低減を図るため、環境に配慮する取組が求められている。 ・身近な水環境の意識強化や水循環の健全化を図るため、市民の皆さまへの周知など、環境に配慮した取組が必要。	・再生可能エネルギーの活用 ・資源の有効活用 **⇒下水汚泥資源化** ▶ 資料２ ・環境負荷の低減
下水道事業の継続への視点	・人口減少に伴う使用料収入の減少などにより、下水道事業の経営が一層厳しさを増すことが見込まれ、安定的な下水道事業の運営に支障を来たすおそれがある。 ・限りある財源、人材活用により、効率的、効果的な事業運営を行う必要がある。 ・市民の皆さまに対して、下水道の仕組みや役割、事業の効果などについて、情報発信を行い、事業運営の透明性を図る必要がある。	・経営・組織基盤の強化 ・使用料収入の減少 ・広域化・共同化等の検討 ・情報公開　など **＜国の経営健全化の推進策＞** **⇒１０年程度の中期収支見通しの公表** **⇒期間中の収支目標の設定と実現に向けたロードマップの策定・公表** **⇒使用料算定期間を設定し、期間経過毎に検証し、収支見通し、使用料等の見直しを行うサイクルの構築** ▶ 資料２

（注）「※」印は、複数の課題に関係しているもの。

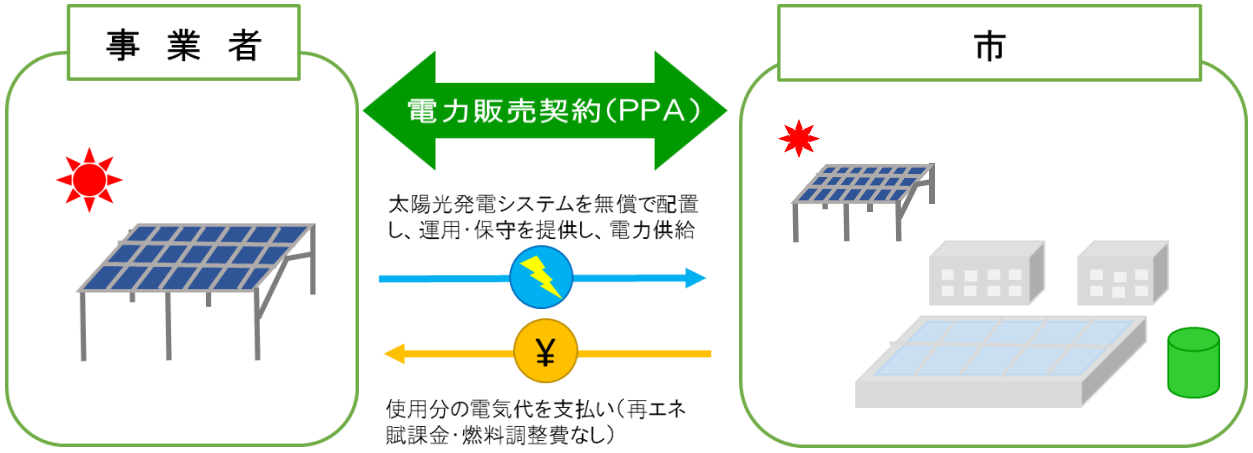
※「高松市下水道事業基本計画」（R2年３月策定）１５Pを抜粋。
（太字部分は追加。）

2　下水道事業の課題

（４）新たな取組事例

自家消費型太陽光発電設備の導入

下水処理場（香東川浄化センター）における未利用地を活用し、温室効果ガス排出を抑制するとともに、電力使用料の低減を目的として、オンサイトＰＰＡ方式により開始（R6.2～）



※太陽光発電設備では足りない電力は、これまでどおり電力会社から購入

バイオマス発電の効率稼働に向けた食品残渣（さぬきうどん）の廃棄物利用実験

東部下水処理場で行っているバイオマス発電について、夏季の消化ガス量減少を補完し、より効果的な発電を行うため、地域バイオマスとして、食品残渣（さぬきうどん）の廃棄物を利用した実験を実施（R4.6～）

2　下水道事業の課題

（４）新たな取組事例

電気自動車の導入

公用車の老朽化に伴う車両更新に当たり、７台の電気自動車を導入
（R6.3～）

浸水対策

＜中心市街地＞
・西部バイパス幹線への既設管接続工事　（R2～）（※西部バイパス幹線工事　R2完了）
・日新ポンプ場建設工事（R6～）（※日新ポンプ場放流渠工事　R5年度完了）
＜周辺市街地＞
・宮川幹線接続への既設水路接続工事　（R6年度に発注予定）（※宮川雨水幹線工事　R6年度完了見込）
・勅使第１雨水幹線工事　（R6年度着手予定）

その他

・「排水設備の新設等確認申請書」の電子申請化
・「高松盆栽」マンホールカードの配布（R4.8～）
・「合格祈願マンホールカード」の配布（R3.12～）